

我が子が生き生きと育つ 家族のコミュニケーション

2018年2月8日 上北沢小学校

花まる学習会 真島 健一郎

k-majima@hanamarugroup.jp

認定子育てハッピーアドバイザー

我が子には楽しく充実した人生を送って欲しいと、親ならば誰しもが強く願っています。私は、生き生きとしている大人は、「よし、やってやろう!」という気概を持ち続けていると感じています。この気概の原点、実は家族のコミュニケーションにあるのです。

1. 「よし、やってやろう!」が人生を楽しくする

(1) プロセスを楽しめる素質

- ①先 (=結果) の見えない不安
- ②情報にやる気を奪われている「省エネ世代」
- ③プロセスを具体的な言葉にして認める

(2) 「それ私にやらせてください」と言える大人

- ①根拠の無い後押し
- ②大げさすぎるほどのお祝い
- ③苦手という感覚は、周りとの比較が前提にある 比較対象は前の自分

(3) 失敗、クレームを宝物に出来る社会人

- ①失敗=贈り物
- ②逆、転ばぬ先の杖作戦
- ③親が悔しがらる

2. 勉強面 親の心構え

- (1) 読解力ピラミッド
- (2) 文末力
- (3) 苦手意識=自己防衛
- (4) ストレスがたまっていることを表明する
- (5) 背伸びを尊重
- (6) 本人の意思を尊重=責任感

3. 事例から幼児期、小学生時代を考える

(1) 高3男子 自学出来ない

- 束縛、親の敷いたレール
- 好きな科目がない
- 幼児期、小学生時代、必要だった家族のコミュニケーション
 - ①未来を語り合う
 - ②親から子への、「今」が幸せかの確認
 - ③親の「仕事観」を伝える

(2) 中1男子 高3男子 大3女子 きょうだいに対しての見事なバランス

- 常に長男を尊重
- 我が子の愚痴は塾の先生へ
- 幼児期、小学生時代、良かった家族のコミュニケーション
 - ①使わなかった、NGワード1
 - ②使わなかった、NGワード2
 - ③「あなたはあなたの時代を生きている」というメッセージ

4. まとめ

- (1) 親ばか
- (2) 親も自分をほめる
- (3) 家族の基準
- (4) 待つ
- (5) 家族イベント
- (6) 我が子がいるだけで幸せ

5. 参考文献

- 『人工知能時代を生き抜く子どもの育て方』 神野元基 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2017年
- 『「賢い子」に育てる究極のコツ』 瀧靖之 文響社 2016年
- 『一流の育て方』 ミセス・パンプキン ダイヤモンド社 2016年
- 『「学力」の経済学』 中室牧子 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2015年
- 『幼児教育の経済学』 ジェームズ・J・ヘックマン 東洋経済新報社 2015年
- 『マシュマロ・テスト』 ウォルター・ミシェル 早川書房 2015年
- 『子どものまま中年化する若者たち』 鍋田恭孝 幻冬舎 2015年
- 『ひといちばい敏感な子』 エレイン・N・アーン 1万年堂出版 2015年
- 『子育てハッピーアドバイス』シリーズ 明橋大二 1万年堂出版 2005年～現在